

Ⅲ 松商学園高等学校

1. 基本方針

下記の内容に重点を据え教育を推進する。

- ①普通科・商業科の教育内容について検証し、一層の充実をはかる。新教育課程を改善する。
- ②大学進学等、生徒の進路実現へ向けて指導を徹底する。
- ③クラブ活動の一層の充実をはかり、より高い目標を実現しつつ学園を活性化する。
- ④国際交流等を通して、次代のリーダーとしての資質・能力を育成する。

2. 学習指導・内容の充実と進路実現

1) 商業科

- ①創立以来一貫して続く本校のルーツである商業教育を通し、地域に貢献する人材を輩出するべく、地域に根差した商業教育と技術革新に対応した情報教育等をさらに充実させる。ビジネスに関する一般的知識だけでなく、会計・経済・情報などの専門的知識と技術の習得、諸検定での上級合格者の増加を目指すこと、職業人・商業人として必要な態度を育てるための体制を確立する。
- ②大学進学希望者が大半を占める現状に対応するため、より高度な資格取得を目指しつつ、一般・専門教科の学力向上も図っていく。2年次からはコース制による授業を展開し、情報関連および会計関連の資格取得にも特化したきめ細かい指導を進める。
- ③松本大学・松商短期大学部との高大連携について、引き続き研究ならびに推進する。具体的には、大学との接続を検討し、高度資格の取得を前提とした5年制および7年制に向けた検討を進める。
- ④地域や大学と連携した商品開発プロジェクトや実践的教育を推進する。開発商品の積極的なPRや販売実習等を年間通し、県内外で実施する。
 - ・各種資格検定試験取得に向け、授業のみならず、放課後の補習授業・外部講師による対策講座等を設定・実施し、生徒の力に合わせたきめ細かい指導に取り組んだ。
 - ・探求的な学びとして、地元地域の課題について実態調査し、解決へ向けた研究・発表を実施した。
 - ・地元食材を活用した新商品開発事業を継続実施し、地元イベント・祭事等において販売実習を行うことでPR効果を高めるとともに、イベント全体の活性化にも貢献した。
 - ・外部講師による特別授業を継続実施した（租税、年金教室、働き方、男女社会参画等各種講座）。
 - ・商工会議所、青年会議所等の団体と連携、協力しボランティア活動を積極的に行った。

2) 普通科・総合進学コース

- ①クラブ活動の実績も生かして希望の進路を実現させる生徒もいるため、効率の良い活動により基礎学力を定着させる学習指導を更に工夫する。
- ②「総合的な学習(探求)の時間」を活かし、生徒の意欲・知性向上を図ると共に、進路決定にも生かしていく。
- ③英語技能検定・漢字技能検定等の資格取得に挑戦し、進路実現の幅を広げる。
 - ・クラブ活動との時間的両立が困難であり、補習授業の成立は不可能であった。

- ・朝のホームルーム時間を利用した小テストは年間を通じて実施した。英語・国語・数学の3教科を軸に担任が指導するなかで、着実な基礎学力の定着と学習習慣の確立を目指した。
- ・「総合的な学習の時間」に関しては、大学入試などの選抜に挑む場合に求められる能力の修得につながる取り組みを実施できた。

3) 普通科・文理進学コース

- ①生徒の学力向上および生徒の学習時間確保のために、通年実施する補習授業や長期休業中の補習授業を強化する。
- ②大学入試における負担の増加の対応するため、科目履修を類型選択により効率化し、より効果的な教育活動を展開する（A類は私立文系、B類は国公立型文系、C類は理系選択）。
- ③漢字能力検定・英語技能検定において、上級合格を目指し、補習を強化していく。
 - ・東京学芸大学、新潟大学、富山大学をはじめとする国立大学に5名が現役合格した。クラブ実績による推薦での合格が3名であった。一方で一般入試に挑戦する生徒の人数が少ないため、効果的な対策が取りづらいことが、今後の課題である。

4) 普通科・選抜進学コース

- ①校外模試・進学ガイダンス等を通じて受験生集団における自己の学力を的確に把握し、大学受験に対応できる学力を培う。
- ②3年生については秋期より特別編成授業を実施し、受験に向けて徹底した指導を実施する。
 - ・選抜機能が高い大学への進学を目指す目的は共有する一方で、クラブ活動と学業との両立に悩む生徒も見受けられるコースである。生徒は厳しい環境の中でよく努力し、教員も的確にサポートした。
 - ・国立大学の関しては新潟大学歯学部をはじめ、国公立大学に4名が現役合格した。

5) 普通科・特別進学コース

- ①1・2年次に英語会話能力を育成するプログラム（OST）を導入する。
- ②1年次冬季に英語会話能力をさらに高めるべく、イングリッシュ・キャンプに参加する。
- ③ICT教育を導入し、Webテスト、動画視聴などを活用して主体的かつ効率的に学力を高める。
- ④オープンキャンパスツアー、大学見学会等の実施および探究的な活動を導入し、生徒の成長を促す。
- ⑤コースの魅力をより高めるため検証を深め、実践していく。
 - ・今年度の1年生より、国内(British Hills(福島県))の語学研修となったが、生徒にとっては大きな成長の機会となった。
 - ・OSTを導入し、外国人講師とテレビ電話で英会話練習を行ったが、ネットワーク接続がうまくいかないこともあり、ネット環境を整えることが今後の課題である。
 - ・本年度の3年在籍生徒数は13名と小規模な学習集団であった。教員の指導が生徒の主体的な学習姿勢へと繋がり、意欲的な取り組みが実現した。結果として信州大学、富山大学、山形大学をはじめ、国公立大学へ8名が現役合格した。

3. 進路指導について

1) 第1学年

- ①学級・コース別のPTAの開催、学校の方針を正しく伝え、保護者の理解を得る。

- ②基礎（中学まで）学力の充実をはかり、初期の段階で高校生活の学習習慣を身に付けさせる。
- ③キャリアガイダンスを実施し職業観を養いつつ進路選択を前向きに検討させる。

2) 第2学年

- ①各種の PTA 説明会を開催し、学校方針の再確認をするとともに、生徒・保護者の進路に向けてのモチベーションを高める。
- ②2 年次後半にガイダンス等を企画し、進路が明確になり 3 年次へスムーズに移行できるようにする。

3) 第3学年

- ①進路決定の最終段階として保護者・生徒への進路ガイダンスを充実させる。
- ②就職者に対しては、公務員模試・SPI の学力対策と面接・社会マナーの講習を実施する。
- ③推薦合格者に対しては、高校学力保障の観点からも校内での基礎学力テストを課す。
 - ・目標としていた進路確定率 95%に 2%届かなかった。
 - ・就職者が 7%となり、近年の 5%から若干増えた。公務員試験に合格する生徒はやはり早い時期から意識を高く持ち試験準備をしている。
 - ・4 年制大学への進学志向が高まる中で（本校 49%：昨年より 5%下降）、安易な推薦による進学形態にならないように指導を続ける必要がある。
 - ・特進コース 13 名卒業生のうち 8 名が現役で国公立大学に合格したことは、継続指導の大切さを再確認できたとともに、現役生の国公立大学進学者が 50%を超えるのは快挙といえる。

4. 生徒募集について

- ①県に準じた主要 5 教科一般入試を推進する。
- ②県立高校の合格発表翌日に実施する一般入試 B について、併願推薦との兼ね合い、定員厳守等の観点で総合的な検討を重ねる必要がある。
- ③教育内容の特色を積極的にアピールし、『あこがれ・希望を感じる松商学園の魅力』をより強化し、情報発信を戦略的に徹底して行う。『学びたい学校』の立場を確立する。少子化の中の増募は難しい面もあるが、最大限の工夫と努力を行う。
- ④入試説明会、体験入学を充実させると共に、学校説明会は松本大学を借りて、学園の宣伝にも努め、積極的に情報発信を行い、生徒募集を推進する。
 - ・推薦入試について、リニューアルした特別進学コースにおいて、公立高校の人気状況の変化（市内 4 校図式⇒3 校図式）もあり、自己推薦（併願推薦）での志願者数も安定的に確保することができるようになった。しかし、同コースの志願者の大半がこの入試を利用した場合、一般入試 A の志願者は激減すると予想できるため、何らかの方策を検討する必要がある。また、商業科推薦、普通科推薦、クラブ推薦での志願者数での定員の充足率が上がるにつれ、一般入試 A の合格獲得がしにくい状況が生じ、推薦入学利用者が増える傾向が強まっている。
 - ・学園全体の宣伝も兼ねて、松本大学での学校説明会開催は有効であった。今後も、学校説明会開催時は同会場で実施したい。
 - ・本年度より入試検定料を全てコンビニ決済で実施したことで、事前の出願状況や入金確認の把握が円滑に進められたため、来年度以降もこの方式で実施する。

5. 広報活動について

1) 広報活動全般に関して

本校の学習活動や様々な取り組みを広く周知していただき、今以上に存在感を発揮できる学校として認知されるよう計画・活動した。情報化の進展が激しい中、広報手法もまた進化してきており、活動のコンテンツも見直していく必要がある。従来新聞広告、ホームページ、ラジオだけでなく新たなツールを活用しての媒体強化や発信も徐々に進めており、今後も計画的に実行していく。

2) 情報発信に関して

本校の歴史・伝統・多様性等を活かし、校友はもちろんのこと、地域への情報発信を迅速に行い、本校への関心を更に高め、学校支援の基盤としての力(地域に愛される「松商学園」)をより一層高める。

- ・ホームページの全面リニューアルに向けて検討(2019年度実施予定)。
- ・体験入学用に作成した動画をホームページにリンク。
- ・Googleなどの協力によるインターネット検索のSEO対策(上位表示)。
- ・Google_MAP上の校内ストリートビューをビルトイン。
- ・Facebookなどのソーシャルネットワーキングサービス(SNS)の利用を促進。
- ・懸垂幕から広報用看板の制作(駐輪場壁面を利用)の検討(2019年度実施予定)。

6. 生徒指導について

- ①HR・授業における挨拶と身だしなみの指導、開始時・終了時の挨拶の徹底、開始時の服装指導
- ②交通安全教育の充実・徹底
- ③登校指導 制服の正しい着用、自転車マナーの徹底
- ④校内巡視
- ⑤携帯電話・携帯ゲーム機の指導
 - ・「制服着こなしセミナー」を実施視するなど身だしなみ指導を特に強化した。
 - ・「スマホ・SNSの安全な利用の仕方」の講習会を学年ごとに実施した。
 - ・自転車事故を防止するため、スクエアドストレートを実施するなど、様々な角度から指導した。
 - ・20時30分完全下校の徹底をした。
 - ・生徒会活動の自主性を重んじ、生徒主導の活動を促した。

7. クラブ活動について(平成30年度 顕著な成績)

- ①全国高校総体(インターハイ)に72名が出場し、国民体育大会には29名が出場した。

陸上競技部	八種競技	5位入賞
空手道部	男子個人形	5位入賞
柔道部	女子個人63kg級	5位入賞
- ②テニス部 全日本ジュニアテニス選手権 U-16 ダブルス 3位
全国選抜ジュニアテニス選手権大会 U-15 男子シングルス 2位
- ③グラススキーワールドカップ ジャイアントスラローム 3位

	スラローム	3位
④グラススキージュニア世界選手権大会	ジャイアントスラローム	3位
	スラローム	3位
	スーパーG	2位
⑤全日本スキー選手権大会	スラローム	7位
⑥第65回NHK杯全国放送コンテスト	テレビドキュメント部門	入選
⑦全国高等学校ダンスドリル選手権2018	ミリタリー部門	2位
⑧国民体育大会 ウエイトリフティング部	男子53kg級	8位
⑨全国高等学校囲碁選抜大会		7位
⑩日本陸上競技選手権大会 U-18	男子100m	5位

8. 保健衛生・健康管理の推進

生徒・職員が最大限の力を発揮するために心身の健康維持とそのための教育と予防に努める。

1) 生徒・職員の心身の健康維持

- ①生徒支援体制の強化・充実のため、関係者がチームとして取り組み、早期発見・早期対応・早期支援に努める。
- ②健康診断でチェックされた生徒には、早めに受診通知書を出し、その後の治療結果まで確認をとることとし、必要であれば保護者と連絡を取り、関係職員の中で情報を共有し対応する。(アレルギー対応等含む)。
- ③健康増進について生かせる活動をするためにも、研究や講習会を増やしたい。
- ④職員の知識向上のための学ぶ機会を設ける。

2) 生徒への教育(健康教育、感染症予防の徹底、性教育、DV防止、薬物乱用防止)

3) 緊急体制づくり(安全な環境づくり、危機管理マニュアルの徹底、災害時マニュアル保健室用徹底)

- ①全職員による心肺蘇生実習の実施。
- ②AEDの設置場所の増設。
- ③インフルエンザ・ノロウイルス等感染症に対し、生徒、保護者、職員に保健だよりを配布し、予防指導を行う。
- ④殺菌用消毒石けんとアルコール消毒、加湿器の設置を行う。
- ⑤感染症が出た場合の速やかな対応体制により、感染拡大を防ぐ。

生徒・職員の心身の健康維持には、まず関係部署における情報共有が第一として、連絡を緊密にするよう心掛け、教職員対象の健康調査やストレスチェック(衛生委員会)の実施をした。また、保健だよりやアレルギー対応の講習会等を通して啓蒙活動を実施、生徒に対しては、1学年対象薬物乱用防止、2学年対象DV防止・性教育(看護学専攻学生による性教育授業)を行った。

危機管理の一環として、教職員・クラブ指導嘱託職員対象の救命講習会の実施や、近年の異常気象等を鑑み、危機管理の一環としてAEDを増設し、危機管理対応の強化に努めた。(屋外2台、屋内1台、遠征などの持出し用1台、計4台増設を含め、現在、校内には計7台設置されている)感染症への対応は、従来通り予防対策も含め早めの対応を心がけた。また、職員へ喫煙アンケートを実施し、校内禁煙に向けて検討した。

9. PTA 活動の推進

各種事業を積極的に計画・推進し充実した活動を展開していく。

①教育活動(学習活動、クラブ活動)に対して、効果的な財政的支援を研究し、推進していく

②私学助成活動を積極的に推進し、陳情活動の実施と、署名活動の協力を行う。

中信地区私学助成推進協議会の事務局として、各校 PTA とともに陳情活動を主導する。

春と秋に教職員が行っている教育条件の改善を求める署名活動に協力する。

③ PTA 地区会を多くの地区で開催することにより、保護者との意見交換を図りたい。

・①については、多くの生徒の活動に支援が行き渡るよう補助規程の見直しに手をつけた。

・②については、多くの市町村に私学の魅力をアピールしつつ「私立高等学校運営費補助金」の獲得に向けて陳情対応をした。

・③については、安曇地区の多くの保護者と地域を取り巻く問題について意見を交換した。

その他の活動として、総務特別委員会（過年度の PTA 会長を委員長とし）を新規に立ち上げ、形骸化している PTA 活動の課題（問題点・活性化等）を検討し、平成 30 年度は大幅な PTA 会則変更に着手し改正をした。

10. 環境整備の推進

1) 環境関係について

地道な日々の清掃活動が主であるため、厚生委員会による巡視を徹底していく。

2) 施設関係について

必要備品であるロッカーや下足箱が適正に配置されるよう割り振る。

3) 防災・防火関係について

年 2 回義務付けられている防災訓練のうち、1 回は全クラスに対する防災ビデオの上映、もう 1 回は総合防災訓練を企画する。特に総合防災訓練では、救護所の設置、トリアージ、けが人搬出、消火器訓練、放水訓練、非常用トイレの設置等多岐に渡るものを企画していきたい。

・環境美化については、全クラス、および各クラブに清掃分担区域を割り当て、毎日の清掃と月 1 回の特別清掃を励行した。また、厚生委員会による巡視で清掃状況を確認し、清掃が行き届いていない箇所を指摘し、指導した。文化祭では厚生委員会が中心となって生徒会主体で環境整備を行った。自主的に校舎内外の美化に協力するクラブも見られた。

教室環境を整えるために各教室に乾湿度計を設置し、熱中症予防、乾燥予防を意識付けた。

・ロッカーや下足箱は適正に割り振りされた。

・最寄消防署の協力指導を得て、9 月に総合防災訓練を実施した。

11. 国際交流活動の推進

①活動報告

・釜慶高校訪問団・ホームステイに来校

日程：平成 30 年 10 月 25 日～10 月 28 日

人数：釜慶高校教員・学校関係者(9 名)および生徒(29 名)の計 38 名

内容：歓迎レセプション、授業見学、交流試合（硬式野球部）、市内観光 他

・釜慶高等学校へ本校ホームステイ生徒が訪韓

日程：平成 31 年 3 月 28 日～3 月 31 日

人数：本校教員(2 名)および生徒(10 名)の計 12 名

②今後の国際交流活動について

- ・釜慶高校との交流ならびに協定書の見直し

2019 年度の交流活動を検討し、本校硬式野球部が釜慶高校に訪問予定であったが、行わない予定とした。また、協定内容についても、2019 年度に内容の見直しを釜慶高校と協議する予定とし、新たな協定書の締結を目指す。

- ・英語圏の高校との連携

今後のグローバル人材の育成の一環として、英語圏の高校との新たな提携を模索するため、研究を重ねる。

1 2. 特別支援教育・スクールカウンセリングについて

特別な教育的ニーズのある生徒・保護者への支援を迅速かつ丁寧に行っていくことを目標とし、特に新入生については、中高連絡会での情報共有ならびに、高 1 ギャップ等も含めた早期対応に努める。また、職員研修を実施し、特別支援教育・不応生についての理解を深める。

1) 特別支援教育

- ①特別支援コーディネーターを設置し、学年主任、学級担任、教科担当者、クラブ顧問、養護教諭、スクールカウンセラー等の連携を密にし、一人ひとりの生徒の実態を把握したうえで教育支援の充実、必要があれば合理的配慮の提供を図る。また、医療・福祉・行政機関との連携も図っていく。
- ②特別支援が必要な生徒については、教科担当者による連絡会を開催し情報を共有する。個々のケースに応じ支援シートを作成し支援していく。保護者にも面談等を行い、教育内容について理解・了承を得る。

2) スクールカウンセリング

- ①学校生活の中で生じる生徒一人ひとりの悩みや相談内容を把握し、スクールカウンセラーを中心にカウンセリングを行う。必要があれば、医療・福祉・行政機関との連携も図る。
- ②生徒本人だけでなく保護者へのカウンセリングも行い、相互的に心のケアや支援する。
 - ・合理的配慮を必要とする生徒への支援ができた。
 - ・観点別評価を導入し、学習障がいのある生徒に対して適切な評価ができた。
 - ・発達障がいに関する職員向け研修および新 1 年担任向けの研修を実施した。
 - ・特別支援教育士スーパーヴァイザーである両川晃子先生に毎月来校していただき、個々に相談にのってもらいなどし、生徒一人ひとりの状態や対応について理解を深めることができた。
 - ・クラス内での対人トラブルや家族内トラブル等、定期的に面談を必要とする生徒も多く、カウンセリングを通じて前向きに学校生活を送っている。

その他の活動として、本校では初めて「いじめ・悩みについてのアンケート」（いじめ防止対策委員会）を実施し、必要に応じて本人からの聞き取り等を含め迅速な対応に心掛けた。

1 3. 情報管理について

近年の文部科学省が推進する ICT 教育を背景とし、校内の情報環境の充実を計ることを目標と

している。今までの「知識伝授型授業（知識を一方向的に伝授する方法）」から、「能動的授業（生徒が自ら能動的に学ぶ方法）」への教育環境の変遷になることを前提とした ICT 機器導入（電子黒板、ポータブル端末等）整備がメインになることが近々の課題である。

今後は、この ICT 機器導入をするためのインフラ整備（ネットワーク構築他）や、他部署と協力しながら電子シラバス整備、ホームページリニューアル、保護者向けポータルサイトの構築化を図ることが重要な課題であるとする。

1) ハード環境について

パソコン教室ならびに教職員が使用している PC 等は、経年劣化で故障となる端末が多く存在しているため、順次入替え計画を検討する。

2) ソフト環境について

端末で使用している OS（Windows7）のサポート期限が 2020 年 1 月で終了となるため、上記と合わせて検討が必要である。

3) ネットワーク環境について

ICT 機器導入へのインフラ整備（基幹 LAN・無線 LAN 環境の構築）が急務である。

4) 学事システムについて

今後は、文部科学省が大学入試改革の一環として提唱している「Japan e-Portfolio」の構築に向けて検討（追加）が必要である。

5) 保護者向けポータルサイトについて

ペーパーレス化を推奨するため、まずは、生徒を通して配布ならびに郵送していた保護者宛通知等をネット環境で配信することを検討する。

1 4. 図書視聴覚教育について

1) 図書館教育

- ・学校図書館の環境整備及び利用促進の啓蒙活動。
- ・図書委員会の生徒会活動（図書当番 文化祭展示等）の指導。
- ・朝読書週間の設定と実施。
- ・学園内の図書館（松本大学図書館、松商学園高校図書館、秀峰中等学校図書館）相互利用の促進。
- ・松塩地区高等学校図書委員会生徒による POP 講習会及び生徒交流会の開催（本校にて夏休み中に実施計画）。

2) 視聴覚教育

- ・視聴覚室及びメディアホールにおける授業協力及び支援活動。
- ・視聴覚室及びメディアホールにおける器材のリニューアル計画の作成（H31 より実施）。
- ・2019 年度開催予定の芸術教室について、会場設定と鑑賞項目の選定及び交渉。

1 5. 学校施設・環境整備等について

老朽化に伴う改修箇所の調査をし、工事規模ならびに優先順位を検討し、改修工事の計画と実施を行うことを目標としている。

平成 30 年度については、学校施設被害として、火災対応（体育館ステージ脇倉庫、部室棟部室）、風災対応（台風 21 号による建物破損および倒木）による復旧を実施した。危機管理の一環

として、校外への防犯カメラ（増設）設置や、高い樹木の枝の剪定に努めた。また、学園寮として運用し始めた筑摩寮への防犯カメラ設置や、空調設備（新規にエアコン）の設置も実施し、生徒の安全安心への強化に努めた。

環境整備として、新講堂兼体育館や旧講堂の照明器具交換（水銀灯からLED化）を実施し、照度が担保されたことと、交換作業が大幅に軽減された等の改善となった。また、全天候型テニスコート1面を改修した。

次年度以降については、引き続き、今年度着手できなかった、普通教室棟以外の照明器機（蛍光灯）のLED化、および体育施設（グラウンド）等の水銀灯からLED化への検討や、全体的に建物の経年劣化が進んでいるため改修等を含め、早急なマスタープランの作成が必要と考える。

16. キャリアサポートセンターについて

過年度までのキャリアサポートは社会環境の変遷により、就職難であった時代背景を鑑み、本校卒業生への就職支援ならびに地元企業をサポートすることを目的として、県内の最終学歴である高等学校（進学者の7割余りが県外への進学となるため）において実施してきた。サポート内容としては、就職活動解禁前に直前セミナー、解禁後には合同企業説明会や、長野県内に事業所を設置している企業約1,800社へ求人依頼をし、企業・求人情報の収集に努めてきた経緯となるが、就活直前セミナー等への参加者は案内を送付した約1割（30名）程度であった。

平成30年度は、近年の少子高齢化の人口構造を背景とし、現在の就職環境は、超売り手市場となっている状況であり、過去のような就職難になることはしばらく考えづらいと予想している。しかし、地方創生の一翼を担うことを目的とし、若者がUターンし、地方経済が疲弊しないよう地元就職をサポートすることは必然であると考えているため、今年度は、就職活動該当学年（大学生3年生、短大・専門学校生1年）を対象として、今までのセミナー等の形式から、情報提供する形式へ変更し、県内を中心とした合同企業説明会情報（2018年12月～2019年5月まで）、長野県内の企業情報、就活のポイントガイドの3点を平成30年12月下旬に郵送した。

17. 学校法人松商学園創立120周年記念行事について

学校法人松商学園創立120周年にあたり、本校の記念行事として下記を実施した。

- ・硬式野球招待試合

日 程：平成30年5月26日（土）（松本市野球場にて）

招待校：作新学院高等学校

- ・男女サッカー招待試合

日 程：平成30年8月19日（日）（アルウィンにて）

招待校：帝京高等学校（男子）、帝京第三高等学校（女子）

- ・絵画贈呈

日 程：平成30年10月2日（火）（松商学園高等学校 法人役員室にて）

寄贈者：深澤俊秀氏

絵 画：奥村光正 画伯作「夕映えの飛行」

- ・中島治康像建立（除幕式）

日 程：平成30年10月4日（木）（松商学園高等学校 木造本館 正面玄関前にて）

制 作：（有）田畑功 彫刻研究所

《2018（平成30）年度 DATA》松商学園高等学校

1. 生徒在籍状況（2018（平成30）年5月1日現在）

学年	商業科			普通科			合計		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計
1年生	26	42	68	199	174	373	225	216	441
2年生	22	54	76	188	200	388	210	254	464
3年生	17	42	59	177	191	368	194	233	427
合計	65	138	203	564	565	1,129	629	703	1,332

（男女比 男子47%：女子53%）

2. 職員構成（2018（平成30）年5月1日現在）

【教育職員】

	H30	H29	H28
校長	1	1	1
教頭	2	2	2
教諭	71	73	77
養護教諭	2	2	1
常勤講師	3	1	
専任講師	2	3	3
非常勤講師	32	35	33
嘱託	1		
A L T	1	1	1
クラブ指導員	14	8	8
合計	129	126	126

【事務職員】

	H30	H29	H28
事務長	1	1	1
課長	2	2	2
課長補佐	1	1	1
主任	2	2	2
主事	4	4	3
事務嘱託	2	2	4
校用技師	3	3	3
施設管理員	4	3	3
学校医	8	8	8
薬剤師	1	1	1
合計	28	27	28

3. 生徒進路状況（2019（平成31）年3月末日）

区分	進学者	就職者	その他 (浪人・家居他)	卒業生数
商業科	49	8	2	59
普通科	314	22	27	363
計	363	30	29	422

進学者内訳

区分	四年制大学	短期大学	専修学校	計
商業科	13	22	14	49
普通科	195	55	64	314
計	208	77	78	363